

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家 (第1ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3370203030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を基盤に、個人の人格を尊重し、一人一人に寄り添い、その人らしい生活が送れるように支援しています。デッキから見える田園風景は、田植えや稲刈等四季の移り変わりを身近に感じることができます。デッキ横の道路からは、犬の散歩をしている近所の方が犬のココちゃんや入居者様に気軽に声を掛けて下さいます。新型コロナの影響で外食行事は出来なくなりましたが、室内のレク活動やゴミ捨て、えんさこ医院周辺の散歩などを行い、楽しい時間を過ごしていただいています。入居者様やご家族様の意向があれば、最期まで支える看取り介護を、医療との連携を図り行っています。24時間医師・看護師の連携とれているので安心して生活して頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな田園地帯に立地する施設ではあるが、近場には多種多様な店が在り、コロナ禍が収まれば外食場所選びには困らない環境である。長年継続している音楽療法は、数回休止しただけで継続できており、ピアノ演奏や歌を楽しんでいる。その中でもハンドベルの演奏は全員の息もピタリと揃うようになり、職員も驚くほどの上達ぶりを見せている。職員は年齢層が幅広いが、ミーティングでも活発な意見交換が行われ、お互い信頼関係も築けていて、入居者に良い影響を与えている。管理者はそれぞれの職員がやりがいが見つけられるよう、またそれを認めて力を発揮できるようサポートしている。母体である医院が隣接し、訪問看護師との連携もうまく取れていて、入居者・家族は最後まで安心して暮らすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々に愛し愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として支援している。クレドを毎朝朝礼時に全員で唱和している。	毎朝の唱和で理念は頭に染みついている。さらに月間目標を掲げることで、より具体的な実践につなげている。現場で気が付く事があればその都度声を掛け合い、助け合って気持ち良く仕事ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で自粛している。地域の人々との交流は深く出来ていない。通りになりに挨拶する程度である。	入居者は地元に住んでいた人が多く、かかりつけ医を受診した際に知人と会うこともある。近隣住民とは、散歩途中に玄関の花や愛犬を話題に気軽に声を掛け合うなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『ほほえみの家だより』の新聞を1年に4回作成し、掲示している。ご家族や外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アクリル板を使用し感染予防に努めながら開催している。地域包括支援センターの方・民生委員・入居者様・ご家族様等が参加され、活動内容・入居者様の状況等について報告し、意見や要望を頂いている。	コロナ禍で会議開催は少しの間中止していたが、色々工夫を凝らしながら再開している。会議の記録もきちんと行われ、出席者から色々な情報をもらい、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスをいただいている。	不明な点や疑問点は電話で質問し、適切な指導や助言を受けている。マスクや消毒液等の感染予防の為に衛生用品や簡易検査キットの配布案内があり、有効活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内研修を行い、職員全員が研修の報告をして身体拘束のないケアに取り組むを行っており、職員が常に意識できるようにしている。居室で転倒の危険がある入居者様には、カンファレンスを行いベッドをやめて床にマットレスと布団を敷き休んで頂けるようにしている。	転倒防止のため、ベッドの4点柵を使用している事例はあるが、毎月見直しのための検討を行い、書面にも残している。大きな声や抑圧的な言い方になっていないか等、互いに注意し合っている。言葉や態度による拘束に関しても十分配慮して介護にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会などを行い、人生の先輩として尊敬し言葉による虐待等もないようにし、入居者様に安心して生活していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できるように十分時間を取り説明をしている。契約後も不安や疑問点などがないかお尋ねするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは、日々の生活の中で信頼関係を築き意見や要望を出しやすいように雰囲気づくりに努めている。ご家族様に対しても、面会時や電話にてお話をし意見・要望の確認に努めている。	活動の様子を載せた「ほほえみの家だより」や、担当者による手書きの手紙などで入居者の日々の様子を伝えている。面会も少しずつ可能となり、入居者・家族にも喜ばれている。電話でもコミュニケーションを図れるよう努めている。	コロナ禍のため、以前のように家族と顔を合わせて要望を聞く機会が減少している。さらに電話連絡等をまめにし、家族が要望を表せる機会が増える事に期待を寄せる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会・人事考課などを通じて意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。	月に1回のユニット毎のミーティングだけではなく、日常の場面でも随時話を聞くように努めている。年に1回の人事考課の際にも色々意見が出てくる。「手紙も写真付きに」とのスタッフ意見を取り入れ、家族からも喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員一人一人の努力・目標を評価し給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修に参加していただいたり、外部研修の情報を提示し参加希望者には支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は交流の機会が少ないが、各部署の情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の情報共有を行い、入居前の生活環境・日課を大切にすることで入居者様に安心して生活して頂けるよう努めると共に、日々の関わりの中で小さな変化にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望・不安や困っていること等お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受け止め、職員間で共有するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等のお話をお聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にし、共に笑い、入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会は行えていないが、入居者様の近況状況や健康状態の変化報告等、お電話やお手紙でお伝えし関係性を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の今迄の生活を維持することを大切に考え、近所に住んでいた方の面会等気軽に足を運んでいただけるような温かい雰囲気グループホーム作りに努めているが、新型コロナの影響により、頻繁に会うことを自粛している。	最近家族と墓参りや法事に行ったりするケースも出てきた。面会も可能となり、家族だけでなく遠方から友人が会いに来てくれた入居者もいる。以前卓球に誘ってくれていた仲間から、電話がかかってくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分から輪の中に入っていくことが難しい入居者様には、職員が間に入り話題を提供したりレクリエーションにお誘いすることで仲間意識が生まれ和気あいあいとした雰囲気作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりを持つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り入居者様の何気ない様子や会話の中からご本人の思いや希望をくみ取り、又ご家族様ともお話をしてニーズの把握に努めている。	普段の会話や表情から、本人の思いをくみ取るよう努めている。入浴時や夜勤者との1対1の会話に話が盛り上がる事も多い。家族に古いアルバムを持って来てもらい、好きだった事や楽しめる事を見つけたり探ったりする努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞きフェイスシートを作成し、職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況(家事・生活動作・趣味活動等)を個人記録に細かく記入を行い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人ひとりのケアについて職員全員(看護師も含め)で情報交換を行い、ケアの統一を図れるようにしている。	毎月全員のモニタリングを、病院のリハビリスタッフも交えて実施している。毎日のサービス実施事項記入用紙にそれぞれのプランが添付されており、計画に沿った介護が行えるよう配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の表情や言葉など細かく個人記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅時に飼われていた愛犬と一緒に入居された方の犬の散歩を、朝・夕行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝・夕の散歩の際には近所の方と、挨拶だけでなく時にはおしゃべりも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院に受診をして頂いている。月4回の訪問看護がある。内容は医療ノートに記入し職員が情報を共有している。	提携医院への2週間に1度の受診には職員が付き添っている。週に3~4回、リハビリに通う利用者もいる。訪問看護師は、毎週来てくれるのでなんでも相談でき、安心をもたらしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の方が月4回見て下さっています。また職場内に看護師がおり、状況変化や対応について気軽に相談でき、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との情報共有を行い連携をとっている。退院前には安心して生活できるよう準備・対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っている。事業所の出来ること出来ないこととお話し救急対応等、主治医との話し合いの場を設けている。	医師・看護師の協力の下、事前に話し合いを重ねながら看取りを行っている。入居者・家族に最後まで過ごせるとの安心感をもたらせている。最後のお別れの時、夜中でも全職員に連絡し、そろってお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成している。ミーティングで見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練を行っている。出火の火災や水害等を想定して避難訓練を行っている。避難経路や自動通報装置の使い方などの再確認をしている。災害時の避難食の備蓄も行っている。	火災訓練は昼夜想定で年2回実施している。施設周辺には水路があり、水害想定で隣接病院への避難訓練も行っている。災害時の食料やトイレ等のキットも備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の生活歴を尊重し、レクリエーションや会話の中から主張を見出しその方に即した対応や言葉かけを行っている。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。	トイレの誘導、排泄の失敗の時など、大きな声を出さないようにしている。衣服の着脱や湿布を貼ったり、薬を塗る時にも、カーテンや扉を閉めて行うよう気を配っている。日常の親しさから、他人が聞いていて耳障りな言葉遣いになっていないか留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい声かけ、希望を言いやすいような環境を作るように配慮している。その人にあった声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の希望や体調に合わせ、出来るだけその人らしい生活が出来るよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・整髪、男性の方は髭剃りをして頂き、着替えの時はどの服が良いか選んで頂いている。2ヶ月に1回移動美容車がきて、散髪や毛染め等、入居者様と相談しながら理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月行事として季節を感じて頂ける食事や祝い事での献立を工夫している。入居者様と一緒に焼きそばを焼いたり手作りのおやつを作ったりしている。食後には後片付け、食器拭きやお盆拭きの手伝いをして頂いている。	毎月1度は、職員・入居者が共に食事作りを楽しむ。焼きそば、ちらしずし、ホットドッグ、サンドウィッチ等々、食卓には笑顔があふれる。入居者の誕生日会は毎回違った手作りケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きな物を飲んでいただけようようにしている。食べにくいおかずはキザミやミキサーなどに形態を変えてお出ししている。嚥下障害がある方には、ミキサー食や水分にとろみをつけ誤嚥予防をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。義歯のない方も、必ず、うがいをしていただく様にしている。口腔ケアに拒否がある方はしっかりお茶を飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるようタイミングを計り、プライドを傷付けないように声かけ誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るように努めている。	排泄チェック表により、それぞれの排泄パターンをつかみ、できるだけトイレでの排泄を目指している。夜間は自室でポータブルトイレを使用する利用者もいる。できるだけ気持ち良く過ごしてもらえる様、排泄用品に関してもこまめに検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、牛乳やお茶等の水分補給を行い便秘の解消を行っている。入居者様一人ひとりの排便チェック表にて把握できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴支援を行っている。入浴前にご本人様に声かけを行い希望の時間帯をお聞きし、出来るだけ希望に沿えるようにしている。	1対1でゆったり過ごせる時間であり、普段と違う話に花が咲く事も多い。全身状態を観察できる機会であり、変化には十分気を付けている。1週間に3回くらい、希望の時間に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操をしたり散歩に出かけたり、デッキにお誘いして犬と遊んだりと日中の活動量を増やし夜間安眠して頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるのでもいつでも確認することができるようにしている。入居者様の症状に変化があれば、医師に服薬の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯たたみ・水遣りなど、その方にあった家庭的な活動を支援している。ご本人様の得意とすることや趣味(小物作り・ぬり絵)等、活躍できる場を見つけ日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日はえんさこ医院周辺を散歩したり外気浴を行っている。電話や手紙などでご家族様と連絡を取り、楽しみを支援している。コロナ禍の為、面会は1ヶ月に1回10分で行っているが、窓越しからの面会は制限をしていない。	最近家族との外出が可能となり、外食や墓参り、法事、散髪などに出かける人もいます。隣接の病院や駐車場の敷地など、散歩道には事欠かない。桜の季節には、敷地内の桜を見て楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりすることはしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。お友達に手紙や葉書(年賀状を含む)を書かれた際には、投函まで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様の手作りの作品や、毎月行っているアクティビティの写真と季節の花を飾っている。ホールの照明は太陽光を遮るロールカーテンを使用し優しい光に包まれている。	木の温もりを感じるリビングには大きなテーブル、良好な座位を保つため、また下肢の浮腫を減らすため、それぞれの入居者に合わせた足台が設置されている。ウッドデッキもあり愛犬と遊んだり道行く人とおしゃべりもできる。入居者の作品や行事の写真、季節感のある生花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、デッキのベンチに座りおしゃべりをしながら四季を感じられる環境となっている。ホール内のソファで気の合う方同士でお話をされている姿もよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう配慮している。	ベッドとタンスが備え付けられている。使い慣れたタンスや家具を持ち込まれる人もいる。写真や自分の作品を掲示し、その人らしい部屋ができ上がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が居室やトイレ・風呂などがわかりやすいように表札や貼紙をして、過干渉にならないよう見守りだけで活動して頂くようにしている。状況に応じてペットの配置やタンスの位置などを変える工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家 第2ユニット		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3370203030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念とし、入居者様の認知症を穏やかに保ち、心身共に安定し、幸福な生活が送れるよう支援することを目的としています。デッキや窓から見える景色は四季の移り変わる美しい風景が見え、グループホームの周りは田んぼに囲まれ自然がいっぱいで安全に外気浴や散歩ができる環境である。また、毎月1回のアクティビティや音楽療法などを行い、楽しい時間を過ごしていただいています。又、第一ユニットでは、入居者様の飼い犬をお世話しています。ワンちゃんとの触れ合いをして癒されています。職員と入居者様との会話に笑顔が多く、和やかで優しい雰囲気です。質のサービス向上を目指し、職員全員で研修に参加して取り組んでいます。また24時間医師との連携がとれているので安心して生活して頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に愛し愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、残念ながら地域とのつながりは難しい状況です。地域の民生委員の方に参加して頂く運営推進会議も、コロナ禍で行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページに更新にて地域の方にグループホームの様子について掲載している。ほほえみだよりの新聞も1年に4回作成し、外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は行えていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスをいただいていたが、コロナ禍の為、行えていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内・外部研修を行い、職員全員が研修の報告を行い、身体拘束のないケアに取り組むを行っており、職員が常に意識できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会などを行い、言葉による虐待等もないようにし、入居者の方に安全に生活していただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っていたが、本年度はコロナ禍の為行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できる様に十分時間を取り、説明をしている。また、不安や疑問点などがないか、こちらからお聞きするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方と包括支援センターの方や民生委員の方とお話する機会がありますのでこれからもこの場を大切にしていきたいが、コロナ禍の為、行えていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会などを通じて意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事に合わせて勤務体制を整えるようにし、安全に仕事が行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修は月1回開催している。院外研修は1年に1回参加するようにしている。定期的に職員全員でマニュアルの見直しを行い、ケアの統一を図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	えんさこ医院グループによる全体での勉強会を行い、各部署の方とコミュニケーションを図りながら、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、話し合いを行うとともに、入居者様がグループホームの雰囲気にも馴染める様に見守りの期間を設け、安心して生活していただけるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問させていただき、ご家族様の希望・不安や困っていることなど、お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等をお話をお聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にし、日々の生活の中でも、共に笑い、ご入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の近況状況や、健康状態の変化報告など、お話をさせていただいている。家族会(お花見会・クリスマス会)などは、コロナ禍の為行えてなく、ご家族に連絡する際に、ご希望等を確認させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方の面会など、気軽に足を運んでいただけるようなホームを暖かい雰囲気作りに努めていたが、コロナ禍の為、面会も制限させて頂いている状況である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で自然に支えあえるように時には職員が間に入り、上手く仲をつなぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりを持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、ご入居者様の声に耳を傾け、ご本人の希望の生活ができるよう協力をしている。職員全員が入居者様の立場にあったケアを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話しを聞きフェイスシートを作成し、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況を個人記録に細かく記入を行い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人ひとりのケアについて職員全員で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の言葉など細かく個人記録などに記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	バルコニーで野菜や、花を育てており、水やり、収穫を手伝ってもらったりしている。成長を見て楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員の方との話し合いの中で情報を取り入れているが、コロナ禍の為、中止をしております十分に出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院に受診をしていただくと。ご家族の方はとても協力的である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の方が月4回見て下さっています。状況変化や対応について気軽に相談でき、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報を提供し、病院関係者と連携をとっている。お見舞いに行かせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っている。事業所の出来ること出来ないこととお話し、主治医との話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成している。院内研修にて勉強会を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練を行っている。毎年いろんなところからの出火を想定して訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のカンファレンスの中で丁寧な言葉遣いの見直しを行い、日頃から実践できるようにしている。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい声かけ、希望を言いやすいような環境を作るようにしている。その人にあった声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはありますが、入居者様中心の生活ですので、その方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容して頂き、着替えの時はどの服が良いか選んでいただいている。2ヶ月に1回移動美容車がきてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは難しいが、おやつ作りのお手伝いをしていただいている。その後は食器拭きやお盆拭きの手伝いをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きな物を飲んでいただけるようにしている。食べにくいおかずはキザミやミキサーなどに形態を変えてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行っている。義歯のない方も、必ず、うがいをさせていただく様にしている。口腔ケアに拒否がある方はしっかりお茶を飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷付けないように声かけ、誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、水分補給を行い、便秘の解消を行っている。入居者様一人ひとりの排便チェック表にて把握できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴支援を行っている。入浴前にご本人様に声かけを行い希望の時間帯をお聞きし、出来るだけ希望に沿えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを把握し、安心して休息できる支援を行っている。ほとんどの方が日中休んで頂く時間があり、夜間は良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるのでいつでも確認することができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯たたみ・水遣りなど、その方にあつた家庭的な活動を支援している。ご本人様の得意とすることや趣味など活躍できる場を見つけ日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、外食等はコロナ禍の為行っていないが、天候の良い日は散歩や外気浴を行っている。手紙などでご家族様と連絡を取っているが、コロナ禍の為、ご家族との外出は難しく又、面会を制限することが多かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方はおられず、所持はして頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音を立てないように心掛けている。光の調節等も行っている。ホールやキッチンなどには家庭で使用している食器や箸などを使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、窓やデッキからの景色が四季を感じさせてくれる環境となっている。隣のユニットの方とも交流が深められるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器などをお聞きし、持ってきて頂けるものを使用していたっている。居室内で心地よく過ごしていただけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど目印をして見守りだけで活動していただくようにしている。状況に応じてベッドの配置やタンスの位置などを変える工夫をしている。		